

	質問内容	並木敏恵 <共産党>	森岡洋一郎 <民主党>
質問1	<p>政治を行う上で重要だと思う順に教えてください。</p> <p>①いのちの安全&amp;健康 ②経済 ③外国とのパワーバランス ④環境</p>	①→④→②→③	①→②→③→④
質問2	<p>原発の再稼働について教えてください。</p> <p>①すべて再稼働すべき ②2030年代までは必要に応じて再稼働すべき ③再稼働はせず、廃炉に向けての準備をするべき</p>	<p>③ 福島現状を考えると、稼働させて事故が発生すれば取り返しのつかない事態になるのは明らかです。また、稼働させれば放射性廃棄物は増え続けます。猛暑の夏も原発なしで電気は足りていました。大飯原発も止めて、そのまますべてを廃炉にすることが最も現実的な対応だと考えます。</p>	<p>②（必要があれば） そもそも2030年代、という数字は廃炉に向けて具体的に動きを進めるために設定した、単なる目に見える数値目標です。実際には25年以上も時間をかけることなく、早急に廃炉への準備を進めるべきと考えます。</p>
質問3	<p>エネルギー政策に対しての考え方を具体的に教えてください。</p>	<p>火力による電力確保はあくまで過渡的な緊急避難措置（5-10年程度）とし、その間に原発分のエネルギーを、再生可能エネルギーと低エネルギー社会への取り組みで確保するようにします。その後は、されに火力発電乗せ苦言へと取り組みを強めます。再生可能エネルギーの導入可能量は、全国で20億kw以上（環境省など）になり、原発54基の発電能力の約40倍です。この大きな可能性を現実にする本格的な取り組みを開始すべきです。</p>	<p>今まで原発に頼っていた26%の電力を作り出すために、再生可能エネルギーの開発や、日本の海の底に眠っている液化天然ガスなどの国産資源エネルギーの実用化を進めることを最優先で実施します。</p> <p>太陽光発電のように、大きな施設でも小さな設備でも発電効率が変わらないようなシステムについては、まちの一軒一軒の屋根や病院、小学校の屋上に太陽光発電パネルを設置し、再生可能エネルギー発電の普及と地域の仕事を増やすことを同時に行い、安全と景気対策をつなげていきます。</p>

	質問内容	並木敏恵 <共産党>	森岡洋一郎 <民主党>
質問4	<p>食品の放射性物質安全基準値への考え方を下記より選び教えてください。</p> <p>①今のままで安全だ ②今のままでは危険 ③今より基準値が高くてでも安全だ</p>	<p>②</p> <p>科学者、専門家、生産者、消費者などの意見を踏まえ、暫定規制値を検証し、必要な見直しを絶えず行っていくことが必要、現在の基準値は思い切って厳しくすべき。</p>	<p>②</p> <p>2012年4月に新基準値が導入、経過措置を経て、1年前に比べれば改善しました。しかし大人よりも内部被ばくの影響が出やすい子供たちに対する基準値、特に赤ちゃんの粉ミルクなどに対する基準値については、見直さなければいけないと考えます。</p>
質問5	<p>もしも近隣の原発で事故があったら私たち地元をどのようにして守ってくれますか？</p>	<p>大規模な原子力災害を想定した法体系はなく、現行法ではカバーできない問題が多い。原子力災害の緊急対策、復旧、復興に、一体的・総合的な対応できる特別法の制定が必要となります。同時に、事故が発生すれば、大きな被害となる原発は直ちに廃止すべきです。</p>	<p>風向き等の情報を即時に公開し、適切な避難を指示します。</p>
質問6	<p>国を守るために徴兵制度は必要だと感じますか</p>	<p>②</p> <p>現在の世界は、戦争で国と国との紛争を解決してきた過去の歴史を反省し、話し合いで解決する道を確立してきました。特に、東南アジアの国々は、ASEAN（東南アジア諸国連合）での議論を進展させ、紛争が起こっていても話し合いで解決する国際ルールを確立させてきました。北東アジアでは北朝鮮など難しい国もありますが、この地域でも「絶対に戦争してはならない」というのが全ての国々の思いです。日本が憲法9条の立場で先頭に立ち平和外交の努力をすべきだと考えます。</p>	<p>①・②とも当てはまらず</p> <p>国民の命と安全を守るのが私たち国会議員の仕事です。日本が望むと望まざるとに関係なく日本の国益を侵害してくる外国に対しては、他国との協力を含む交渉を通じて最悪の結果（武力衝突）にならないよう、死力を賭して盾となり活動するのが国会議員の当然の義務であると考えます。</p>

	質問内容	並木敏恵 <共産党>	森岡洋一郎 <民主党>
質問7	<p>TPPで関連してくる食品の安全性への考え方を教えてください。</p> <p>① TPPへの参加は経済のために必要</p> <p>② TPPへの参加は経済のために必要。まず議論に参加し国民に不利益となる場合はTPPに参加しない</p> <p>③ TPPに参加する必要はない</p>	<p>③</p> <p>TPPは、原則「関税ゼロ」であり、個別の交渉はできません。関税自主権が破壊され、農業や医療制度の崩壊が予想されます。</p>	<p>条件付きで③（交渉条件が整うまで、今のところ参加の必要なし。）</p> <p>自由貿易については、日本のモノを売って経済を回していくために必要です。しかし、今のTPPのルールではあまりに日本にとって不利なものです。まず、まだTPPに参加していないインドや中国などと連携し、二国間協議やFTAなど他の自由貿易協定を先行して進め、日本の味方を増やして交渉を有利にしていくことが必要です。（野田総理がTPPに参加表明した際、私は官邸に乗り込んでこのことを説明し、【即時参加】から【他の自由貿易協定と同時進行させながら】、という条件まで譲歩させた経緯があります。）</p> <p>唯々諾々とアメリカが作ったルールに乗せられ、穀物メジャーによって工業製品のように作られた遺伝子組み換え食物を売りつけられ、日本の農業と食の安全が侵害されるようなことは絶対にあってはなりません。</p>
質問8	<p>子育て政策について、どんなアイデアをお持ちですか？</p>	<p>子育て政策は、一つだけの対策ではなく、総合的な施策が必要です。保育所の充実、医療費無料化の促進や教育費の無償化の推進など経済的援助、小神通楽興など教育の充実。特に、安定した雇用と人間らしい働き方、経済的な安定が不可欠です。雇用は正規が当たり前の社会、労働時間や賃金、休日などのゆとりある働き方ができる社会が必要です。</p>	<p>多様な家族の在り方に答えるよう、保育園、学童の整備を進めるとともに、それぞれの家庭を孤立させず支える仕組み（子育て相談等）を整備します。</p>

	質問内容	並木敏恵 <共産党>	森岡洋一郎 <民主党>
質問9	私たち母親に対して、PR & メッセージをお願いします。	34歳で春日部市議会議員に初当選し、4期12年、ふたりの女の子を育てながら、保育所・学童保育所や地域のお母さんと支え合いながら、住民要求を一步ずつ実現させてきました。児童センター・エンゼルドームと子ども医療費無料化は思いでと感慨深い実績です。今後も、みなさんの願いの実現に全力を尽くします。	私は、4歳（長男）と1歳（長女）の子どもを持つ、皆さんと同じ子育て世代の父親です。子どもの命を守りたい、という気持ちで皆さんとつながっていると思います。  （過去の実績） 子供の命を守るために、県議時代から取り組んできた小児救急の復活。 春日部市立病院では小児科・産科ともに閉鎖という事態に陥っていました。 国政に於いて、診療報酬を十年ぶりに十改訂し、地域の救急や小児科産科などに携わる公立病院や勤務医に手厚く配分。 結果、春日部市立病院を含む多くの病院が経営改善し、小児救急等を復活させることが出来ました。

\*12月8日(土)午後に各事務所を回り質問状を提出しました。並木候補からは10日(月)に、森岡候補から13日(木)に回答いただきました。北角候補、土屋候補の事務所に12日(水)午後に催促の電話をしましたが、現時点で未だ回答いただけていません。中村候補は連絡先不明のため渡していません。